

(国語)

根拠をもって、自分の考えを表現する力を育てる
～一人一人の子どもが読みを深められる授業をめざして～

大阪市立加美小学校 桑原 啓一

1. 研究主題設定の理由

本校では、「強く・明るく・積極的に学び行動する子どもの育成」を教育目標とし、心身ともにじょうぶな子・友達と協力する子・主体的に取り組む子の育成をめざし、教育活動を進めている。平成 28 年度より国語科を重点研究科目と位置付けて研究を重ねて、本年度で 3 年目となる。

平成 28・29 年度ともに次のような成果があった。

- 単元を貫く言語活動を取り入れた学習計画を立てたことで、児童が意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
- 教材を読み取る力を高めるために、発問や教材を工夫した。その結果、登場人物の心情や筆者の主張を正確に読み取ったり、自分と友達の考えを比較・分析したりする力を高めることができた。
- 考えを書いたり話し合ったりする意見交流の場を工夫したことにより、自分の考えに自信をもって発表する児童が増えた。どの学年も、ペア・グループ交流を経て、学級全体の場で意見交流を行った。自分の考えを聞いてもらうことで自信を付けたり、友達の考えを聞くなど多様な考えに触れたりすることができた。

2. 研究の趣旨

平成 29 年度に実施された大阪市小学校学力経年調査では、大阪市の平均正答率を下回る結果となり、到達度 C（0～54％）の児童の学力向上が必要であるように感じた。

また、質問紙調査でも次のような児童の姿が見えてきた。

- 授業の成果が学力としてまだ定着していない。
- 話し合い活動が不十分で、実りある意見交流とは言い難い。
- 理由を明確にして自分の考えを書くことに苦手意識をもっている。
- 読書をあまりしていない。

そこで、授業前に児童の実態をつかむためにアンケートを行ったり、基礎学力を高めるために朝学習やモジュール学習などで視写や漢字学習に取り組んだりするようにした。また、学力向上推進事業モデル校として、指導力の向上や教材分析についての研修会を実施したり、示範授業や公開授業を学期に 1 回以上行ったりして、指導者の授業力を高めることにも努めるようにした。さらに、校内で漢字検定にも取り組むことで、学校教育だけでなく家庭教育でも漢字学習に力を入れるようにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるために、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 単元構成の工夫

- 児童に身に付けさせたい力を明確にする。
- 身に付けさせたい力にふさわしい言語活動を設定する。

- 単元構成を考える。

視点② 自分の考えをもち、表現し形成していく工夫

- 児童一人一人が読みを深めることができる、指導者の発問をつくる。
- 児童が「根拠・理由・主張」をもって自分の考えをもち、表現できるようにする。
- 友達と考えを共有する場を設定し、考えを広めたり、深めたりすることができるようにする。

視点③ 読書活動の充実

- 読書タイム（毎週木曜日の始業前）
- 読書ノートを活用
- 絵本などの読み聞かせ
- 音読指導
- 学校図書館・平野図書館の利用

研究の成果と今後の課題

（１） 研究の成果

- 第Ⅰ次で児童の目指す像を示すことにより、見通しをもって学習に取り組めた児童が多かった。また、クイズやリーフレットづくり、意見文を書くなど、児童がやってみたいと感じる教材を提示することで、興味関心を高めることもできた。
- 学級の実態に合わせた支援や工夫を取り入れた。例えば、第１学年のように３人組で学習を進めたり、第３学年のように要約虎の巻を使ったり、第５学年のように発問の工夫を行った。このように、児童の実態に合わせた指導者の働きかけにより、自分の考えに自信をもつことにつながった。
- 意見交流では、自分の考えをペアやグループ交流を通して、自分の考えに自信を持ったり、互いの考えを共有したりすることができた。そして、全体発表を通して多様な考え方を知ることで、自分の考えをより深めることができた。
- 多くの学年が並行読書、多読するような単元計画を作成した。休み時間に読書する児童が増えた。また、本と本を比べて、共通点や相違点を探している児童の姿もあった。

（２） 今後の課題

- 「自分の考え」の書き方や意見交流の進め方などについては、国語科だけでなく教科横断的に取り組んでいく必要がある。
- 「読むこと」や「考えを書くこと」に苦手な児童が自信をもってできるような支援をこれからも研究していく。